

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

第2期和束町まち・ひと・しごと創生推進計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

京都府相楽郡和束町

3 地域再生計画の区域

京都府相楽郡和束町の全域

4 地域再生計画の目標

本町の人口は、昭和30年の7,614人をピークに減少しており、住民基本台帳によると令和6年には3,353人まで落ち込んでいる。国立社会保障・人口問題研究所によると、令和22年には総人口が1,925人となる見込みである。

年齢3区分別の人口動態をみると、年少人口（0～14歳）は昭和30年の2,479人をピークに減少し、令和2年には237人となる一方、老年人口（65歳以上）は昭和30年の557人から令和2年には1,655人と増加の一途をたどっており、少子高齢化がさらに進むことが想定されている。また、生産年齢人口（15～64歳）も昭和30年の4,578人をピークに減少傾向にあり、令和2年には1,584人となっている。

自然動態をみると、出生数は平成元年には53人であったが、令和6年には4人と大幅に減少している。その一方で、死亡数は平成元年の71人から令和6年の71人と横ばいであり、出生者数から死亡者数を差し引いた自然増減は▲67人（自然減）となっている。

社会動態をみると、林業といった一次産業の衰退に伴い、雇用の機会が減少したことや、学研都市地区といった近隣地域と比較し交通面や生活面における利便性の悪さが要因となり、町外への転出者が増加し、令和6年には▲21人（転入者89人、転出者110人）の社会減となっている。このように、人口の減少は出生数の減少（自然減）や、転出者の増加（社会減）等が原因と考えられる。

今後も人口減少や少子高齢化が進むことで、地域における担い手不足やそれに伴

う地域産業の衰退、さらには地域コミュニティの衰退等、住民生活への様々な影響が懸念される。また、新型コロナウイルス感染症拡大により観光業は大きな打撃を受け、交流人口の大幅な減少をもたらした。

これらの課題に対応するため、雇用の創出による転出の抑制及びU I J ターンの増加を図るとともに、子育て支援を推進し、安心して子どもを産み、育むことができるまちづくりを推進する等、様々な分野の取り組みを一体的に進めることで、人口減少に歯止めをかける。

なお、これらに取り組むに当たっては、次の事項を本計画期間における基本目標として掲げ、目標の達成を図る。

- ・基本目標 1 選ばれる茶源郷
- ・基本目標 2 価値を生み出す茶源郷
- ・基本目標 3 持続可能な茶源郷

【数値目標】

5-2の ①に掲げる事業	K P I	現状値 (計画開始時点)	目標値 (2030年度)	達成に寄与する 地方版総合戦略 の基本目標
ア	空き家への転入世帯数（ 延べ世帯数）	24件	30件	基本目標1
ア	教育に満足している住民 の割合（保護者アンケート）	小学校97% 中学校80%	小学校97%以上 中学校85%以上	基本目標1
ア	子育てしやすいと感じる 住民の割合	就学前74.5% 小学生77.3%	就学前80%以上 小学生80%以上	基本目標1
イ	荒茶生産量	1,224,178kg	1,225,000kg	基本目標2
イ	ふるさと納税（企業版ふるさと納税含む）納付額	14,782千円	40,000千円	基本目標2
イ	観光入込客数	188,332人	300,000人	基本目標2
ウ	ずっと住みたい住民 の割合	46.2%	50.0%	基本目標3

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5-2のとおり。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

○ まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する
特例（内閣府）：【A2007】

① 事業の名称

和東町まち・ひと・しごと創生推進事業

ア 選ばれる茶源郷事業

イ 価値を生み出す茶源郷事業

ウ 持続可能な茶源郷事業

② 事業の内容

ア 選ばれる茶源郷

魅力的な茶畑景観と豊かな自然環境を基盤とし、新しい暮らし、充実した子育て・教育環境、そして利便性の高い交通ネットワークを整備することで、多様な世代・層から持続的に選ばれる「茶源郷和東」を確立していく事業

【具体的な事業】

- ・都市住民の二地域居住の推進
- ・子どもと保護者の集いの場づくり
- ・ふるさと歴史講座の充実
- ・公共交通の維持と充実 等

イ 価値を生み出す茶源郷

「和東ファン」獲得に向けて、本町のお茶を通じた様々な魅力を最大限引き出し、5感で感じ、体験することで記憶にのこるまちづくりを進めるほか、鷲峰山トンネル開通によるメリットを生かし、新しい事業を展開し、ブランド化を促進するとともに、茶産業を軸に町内での雇用環境を整備し、訪れる場所だけでなく、働く場所としての価値を生み出す「茶源郷和東」を確立するための事業

【具体的な事業】

- ・茶業振興対策
- ・「お茶の京都」の取組みと連携した観光振興
- ・地域ブランドの普及・育成 等

ウ 持続可能な茶源郷

住民が住み続けられる環境を維持するため、住民同士の支え合いを大切にし、人口規模に適応した施設整備や高齢者等に向けた充実したサポート体制による安全で安心を生むまちづくりを進めるとともに、町単独ではなく広域での連携も強化し、将来にわたって持続可能な「茶源郷和東」を確立する事業

【具体的な事業】

- ・健康福祉交流センターの活用
- ・避難対策の強化
- ・近隣市町村との地域連携推進 等

※なお、詳細は和東町第3期まち・ひと・しごと創生総合戦略のとおり

③ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

4の【数値目標】に同じ。

④ 寄附の金額の目安

600,000千円（2026年度～2030年度累計）

⑤ 事業の評価の方法（PDCAサイクル）

毎年度9月頃に外部有識者等による効果検証を行い、翌年度以降の取組方針を決定する。検証後速やかに本町公式WEBサイト上で公表する。

⑥ 事業実施期間

2026年4月1日から2031年3月31日まで

6 計画期間

2026年4月1日から2031年3月31日まで